

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 赤坂小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価
1	【基礎学力】 データ活用による 学力の定着と向上	★	新規	児童のつまずきを 基に授業改善を行 い、学力の定着と 豊かな自己表現力 身に付けた児童を 育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな児童理解（学びポ ートフォリオ等）を基に教材研 究や授業改善、家庭学習の工 夫を行う。</li> <li>・ゲームや家庭学習の時間等 を自己決定し、家庭と連携を 図る。</li> <li>・ふりかえりの方法等を工夫 する。</li> <li>・論理的な説明の仕方、1.5 以上の対話等を意図的に取り 入れる。</li> <li>・体験したことを、書く、描 く、話すを意識して表現す る。</li> </ul>	①全国学力・学習状況調査の正答 率40%未満の児童前年度以下 （R7.国7.3%算24.3%） ②全国学力・学習状況調査の正答 率40%未満の児童全国平均以下 （R7.全国：国12%算26.3%） ③標準学力学習状況調査の正答率 40%未満の児童前年度以下（R7. 国5.1%算10.5%） ④標準学力学習状況調査の正答率 40%未満の児童市平均との差増加 （R7.国△1.3算△3.5） ⑤1日のゲーム3時間未満の児童前 年度以上（R7.児童：80%） （R7.3月保護者：83.2%） ⑥自分の考えとその理由を明らか にして相手にわかりやすく伝える ように発表している児童前年度以 上（R7.1の評価45.8%） ⑦次の学習へ、分かった点やよく 分からなかった点をつなげること ができる児童前年度以上（R7:1の 評価30%）							
1	【多様な学び】 個々の特性に応じ た教育内容の充実		新規	多様な他者と関わ ることを通して、 自己有用感を高 め、自他を大切に できる児童を育て る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別的教育支援計画、指導計画 の作成を行い、家庭や関係諸機関 と適切に連携する。</li> <li>・地域資源や人材を活用した学習 を行うことを通して、地域の良さ や自他の良さに気づく。</li> <li>・生徒指導の三機能を生かした授 業づくりを推進する。</li> <li>・特別活動の充実を図り、児童会 等主体で企画・運営を行う。</li> <li>・様々な教職員が児童のよさを価 値づける機会を意図的に持つ。</li> <li>・ここだん等を効果的に活用し、 いじめ、不登校の未然防止に努 める。</li> </ul>	①個別の個別的教育支援計画、指 導計画の作成、家庭との連携 100% ②地域の人や課題などに児童が触 れる機会を持っている教職員前 年度以上（R7.2月:28.6%） ③自分は人の役に立っていると奥 感できる児童前年度以上（R7.2 月:89.1%） ④学校へ行くのが楽しいとか難し じている児童前年度以上（R7.学 て：1の評価70%） ⑤不登校出現率前年度以下 （R7:2.0%）							
1	【不登校対策】 未然防止と社会的 自立に向けた支援		新規		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が各自で研究テーマを設 定し、自分の強みを生かしなが ら、授業づくりを推進する。</li> <li>・主任主事を中心とした、部会運 営を行い、各部のアイデアを生か した取組を積極的に行う。</li> </ul>	①教科の面白さを実感している」 教職員前年度以上（R7.2月： 57.1%） ②仕事にやりがいを感じている教 職員前年度以上（R7.2月： 64.3%） ③時間外在校等時間月平均30時間 未満の教職員前年度以上（R7： 63.2%）							
1	【環境整備】 教職員が生き生き と働ける組織づく り		新規	目標を持ち、自分 の強みを生かしな がら学校経営に参 画している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が各自で研究テーマを設 定し、自分の強みを生かしなが ら、授業づくりを推進する。</li> <li>・主任主事を中心とした、部会運 営を行い、各部のアイデアを生か した取組を積極的に行う。</li> </ul>	①教科の面白さを実感している」 教職員前年度以上（R7.2月： 57.1%） ②仕事にやりがいを感じている教 職員前年度以上（R7.2月： 64.3%） ③時間外在校等時間月平均30時間 未満の教職員前年度以上（R7： 63.2%）							

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。